



これからが  
本番!

# 2013年の

# 日本株投資

20

# 経済界

2013年7月2日号  
http://www.keizaikai.co.jp/

### 特集

「多くの企業と、共創しながら、新たなイノベーションを生み出す、サイエンスカンパニーを目指します」 16

「総論」冷静かつ柔軟な投資行動で好機を生かす 22



「市況回復を追い風に攻めの経営に転じる」  
日比野隆司・大和証券グループ本社社長 24



証券各社の  
スペシャリストに聞いた  
アベノミクス  
第2ステージの  
参考銘柄

「円安」「金融緩和」「ビッグデータ」  
品田民治・野村証券投資情報部市場戦略課長・投資情報二課長 28

「TPP」「次世代エネルギー」「クールジャパン」  
窪田朋一郎・松井証券営業推進部副部長・シニアマーケットアナリスト 29

みずほ証券投資情報部に聞く  
アベノミクス第3の矢「成長戦略」の実効性と株式市場動向 31

注目の政策5銘柄企業動向ウオッチ

クールジャパン ワコム クリエイティブ市場開拓を推進 33

ネット選挙 サイバーエージェント  
「Ameba」を活用し、ネット利用者の政治参加を促進 34

ネット選挙 マクロミル 政党向け市場調査開始で一層の業績拡大を目指す 34

観光振興 一休 ポイントサービス強化によるリピート増加が成長加速の原動力に 35

次世代エネルギー ユーグレナ バイオ燃料による成長期待を業績拡大につなげるのがカギ 35

富田層の資産運用動向 リスク資産購入意欲増も一部では積極運用を回避  
渡瀬裕司・UBS銀行ウェルス・マネジメント部マネージングディレクター 36

「相場上昇の継続を見据え億トレーダーを目指す」 著名投資家・村上直樹氏 37

「調整局面は夏で終了 株価は年末に1万8千円台に到達も」  
菅下清廣・スカシタパートナーズ社長 38

「ライフワークとライフワークを一致させる企業が成長を持続できる」  
洪澤健・コモンズ投信会長 40

### News Report

「報告書や決算の矛盾が噴出し  
まだまだ続く大王製紙の混乱」 46

「西武HD VS サイベラス」  
TOBが低調に終わり、次の争点は株主総会での取締役選任  
静かに動き出した日本経団連・ポスト米倉体制の行方  
伏線は改正薬事法!?  
暗雲立ち込めるOTCネット販売の全面解禁 52

「還元セール禁止も税表示なければOKで、  
消費税転嫁法は抜け道ありのザル法か!?」 54

「TOPIC INTERVIEW」  
日本の介護事業を中国へ!  
2億人の巨大市場に進出する、日本高能金松資本の挑戦  
「タブレット・ゲーム事業の売り上げを1年で数倍に拡大する」  
竹田芳浩・ロジクール社長 60

「金の卵発掘プロジェクト2012」審査委員特別賞受賞  
吉弘和正 リンクバルCEO  
人と人との出会いの場を「街コン」事業を通じて創出 96

「ソディック社長 金子雄二」コアとなる新しい技術を常に  
生み出し続けることで、高いシェアを獲得できました」 104

「新社長登場」  
「アジア投資のエキスパート」としてナンバーワンを目指します」  
和田康志 106

「シリーズ大学の挑戦 第22回 日本女子大学」  
「創立者の信念に基づいて現在に生きる女性の教育に取り組みます」  
路地裏発 業界レポート 第17回 社会保険労務士業界  
新連載 再生医療の現実 116 98 126

### 強力連載&コラム

「竹村健」  
「御意見番参上!」 74

米倉誠一郎・清水洋  
「世界で勝つための  
イノベーション経営論」 64

神原英資  
「天下の正論」巻の暴論」 76

夏野剛  
「夏野剛の新ニッポン進化論」 62

三橋貴明  
「実践主義者の経済学」 66

二宮清純  
「スポーツ羅針盤」 78

北澤宏一  
「Biz未来系」 114

「勝ち組企業養成講座」  
畑中鉄丸 130

「老けるな!」  
坪田一男 80

「老けるな!」  
小幡 43

「経済万華鏡」  
津山恵子 68

「新生オバマのアメリカは今」  
「先手必勝」(中井広恵) 103

「閉巻便り」(小川誠子) 115

「マーケットエクспレス」 124

「イチ押し情報アラカルト」 120

「地域再生の現場に行く」(竹本昌史) 100

「元国税調査官が明かす 税務調査の秘密」  
(松嶋洋) 102

「ビジネス新空間」(矢田晶紀) 10

「サイバーテロ 政府・企業とも  
対応はまったなし!」(飯野忠男) 122

「オバマ大統領の英語」  
(ジエイムス戸田) 118

「先手必勝」(中井広恵) 103

「閉巻便り」(小川誠子) 115

「マーケットエクспレス」 124

「イチ押し情報アラカルト」 120

### Close Up

「視点平沼超夫」  
(衆議院議員) 7

「フェイス」濱田賢治  
(ホテルニューグランド社長) 12

「企業eye」 108

「霞が関ウォッチング」 70

「ヘッドライン」 112

「書評」藤原作弥  
(元日本銀行副総裁) 128

「虎ノ門で働くオンナ社長」 132

「有情有心」 133

「編集部から編集長から」 134

「フォトレポート」  
(経済界倶楽部5月東京例会) 111

「特別企画」  
「住宅不動産特集2013」 83

「サイエンスカンパニー」。一般工業材料からエレクトロニクス、建築・土木資材、自動車関連資材、食品・薬品、農業資材、太陽電池やバイオ燃料など、ありとあらゆる分野の産業に素材資材を提供しているデュボンが掲げるキャッチフレーズだ。米国を本拠としてグローバル展開しながら世界中で380億ドルもの売り上げを誇るデュボン。創業から210年がたち、日本に進出して50年以上になる名門企業の次なる戦略とは。

（聞き手／本誌編集委員・清水克久）

## ケミカルからバイオ、 そしてサイエンスの会社へ

—— デュボンと言えばケミカルの印象が強いのですが、現在はどうですか。

**田中** 当社は長らくケミカルカンパニーを標榜してきました。1802年に米国で創業した当初は黒色火薬の製造会社として急成長しました。それで100年がたち、次の100年間

は黒色火薬だけではなく、大きく手を広げたのですが、その軸が化学だったのです。合成繊維やエレクトロニクス用の素材、食品や薬品関連など、20世紀のデュボンはまさにケミカルカンパニーだったと言えます。しかし創業以来200年になろうかという時、次の100年、21世紀も同じで良いかというところではないという考えに至りました。さらに事業を広げていこうとした時、ケミカルを超えた生物学・バイオテクノロジーをベースとした分野に着目。そのために企業買収もし、自社でも新事業を展開しています。現状ではケミカルカンパニーではなく世界で最もダイナミックなサイエンスカンパニーだと思っています。

—— 企業の成長過程では買収や共同事業も必要ですね。

**田中** デュボンは、国際化が進んだ今日、世界的な課題に対応するには、ひとつの国、ひとつの組織など

単一組織では有効なソリューションを生み出すことはできないという考え方をしています。そこで生まれたのが「コラボラトリー」という精神です。これは「コラボレーション」とラボラトリーを組み合わせた言葉なのですが、日本語では「共創」と訳しています。文字通り、パートナーと共に創り出すということです。

共創の一例として、今年2月に発表したJAさんとの新型農薬の開発があります。これは米作の害虫であるウンカに対応する農薬です。現在のウンカは既存の農薬に耐性ができてしまっているのです。新しいアプローチの農薬を開発しようというプロジェクトです。ニーズの把握、販路の確保という点で

はJAさんが、技術はデュボンが担う形の共創です。両者の特徴や強みを生かしながら一緒に取り組めば、より早く、大きな成果が望めます。

—— 現状の事業ポートフォリオと主力分野は。



これからが本番!

# 2013年の日本株投資

昨年末からの株高基調から半年が過ぎ、5月に入って日経平均株価が下落する局面が現れた。投資家は銘柄の選別を強めており、株式市場にはリスク要因が見られる。しかし、証券関係者は「日本株投資はこれからが本番」と口を揃える。その理由について、本特集では、マクロとミクロの両面から探った。また、今後注目すべき銘柄を紹介する。  
(本誌/鈴木健広)



日経平均		13862.31	
ユーロ/円		128.17-28	
JR西日本	4665	JR東海	11780
郵船	253	商船三井	404
三菱倉	1729	スカ-J	49150
NTT	160300	東電	438
東ガス	559	大ガス	425
ドーム		セコム	

5月30日	14:54	日経平均	13603.05
TOPIX	100.74-76	ユーロ/円	130.60-76
日経平均	13603.05	TOPIX	100.74-76
ユーロ/円	130.60-76	日経平均	13603.05







# 冷静かつ柔軟な投資行動で 好機を生かす

## 株式市場の活況で 「昨年までのリベンジを」

「世界中で、日本経済はもしかしたら本当に復活するのかもしれない」という期待が高まっている

藤沢久美・シンクタンク・ソフィアバンク代表は、熱を込めてこう語った。会場は都内・大和スカイホール。大和証券が5月下旬に開催した個人投資家向け「ダイワのNISA(ニーサ)セミナー」の一幕だ。当日は平日にもかかわらず200人超が聴講した。

参加した70歳代女性は、「今年は昨年までと全く状況が違う。ぜひ投資を再開したい」と声を弾ませる。女性はここ数年、市場低迷が要因で、さんざん株や投資信託の損切りを繰り返してきた。

た。「大きな利益が期待できる商品」を運用して、今までのリベンジを果たしたい」と意欲を語っていた。

長らく続いた株価低迷を経て、安倍新政権の掲げる経済政策への期待感により、株価が力強く上昇。大和証券・投資戦略部がまとめた統計によると、日経平均株価の算出に使われる東証一部の225銘柄のうち、表の20社がこの7カ月間で大きく株価を上げた。個人投資家が「相場が好調なうちに、リターンを得たい(前述の女性)と考えるのは自然な感情だ。

だが、今年5月に入ってから日経平均株価が乱高下している。株価が上昇サイクルに入ってから、下落局面に入ったのは初めてとも言える。「外国人投資家の成長戦略に対する失望売